

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和4年4月30日現在

| | | |
|-------|--|--------|
| 研究課題名 | ソ連構成共和国の独立過程に関する研究 ーウクライナとベラルーシの比較を中心にー | |
| 申請者 | 氏名 | 所属機関・職 |
| | 田路 真也 | 衆議院事務局 |

研究成果の概要

ソ連解体から30年が経過し、その解体メカニズムの解明を図る研究は蓄積が見られる。しかしながら、ソ連を構成していた15の共和国の独立という観点からの研究はまだ十分に行われていないとは言えない。本研究では、ソ連第二の共和国であったウクライナのソ連からの独立過程、そして同過程とソ連解体過程との相互関連の分析を試みる。具体的には、ウクライナ最高会議議長であり、後に初代ウクライナ大統領になったレオニード・クラフチュークを中心とした体制側政治アクターと共産党、民族主義団体等を主要アクターに据え、それぞれのアクター内の角逐と各アクター間の相互関係に着目し、いかにしてウクライナがソ連からの独立を成し得たのかについて検討する。その上で、同時期のベラルーシ政治との比較研究にまで発展させたいと考えている。

センターには、令和3年の夏と冬に合計9日間ほど滞在し、概要以下の資料調査を行った。

①現地新聞の調査

Радянська Україна や Демократична Україна 等の現地新聞を網羅的に調査した。

②当時の主要政治アクターの回想録の調査

ソ連中央のみならずウクライナ、ベラルーシの主要政治アクターの回想録を調査した。

③その他二次資料の調査

なお、大学等の研究機関に所属しない者としては、現下のコロナ禍において大学図書館が利用できない中で、スラブ・ユーラシア関係の資料を多数所蔵する北海道大学で調査を行うことができたのは大変ありがたかった。

最後にこの場をお借りして、事務室の御担当者様をはじめ、お世話になった全ての方に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

今後、収集した資料の分析を進め、研究報告や論文執筆につなげたいと考えている。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

なし